

創刊号によせて

2012（平成24）年度は、経営学部経営学科が経済学部の経営学科から独立してスタートした記念すべき年度です。1992年4月に青梅の地に情報学部経営情報学科が開設されましたが、2005年4月諸般の事情により日野校に経済学部経営学科として改編されました。そしてその7年後に経営学部独立という悲願が成就したことになります。関係各位のご尽力に心から御礼申し上げます。

新しい経営学部は、経営学の基礎理論をまず理解して次に経営実践との融合を図ります。多摩地区における起業家や事業継承者となる人材や企業経営で中心的な役割を果たせる人材の養成に力を注ぎます。そのために経営学の理論に加えて、多摩地区との連携を図り起業やキャリア開発を強く意識した教育課程を提供することにしました。具体的には、1) 起業・戦略コース、2) マーケティングコース、3) 経営資格コースの3コースを設けて、個々の学生の興味・関心や卒業後の希望進路に応じてコースを選択させ、より専門的かつ実践的に学んでもらえるようにしました。

大学の使命は教育と研究にあることは論を待ちませんが、特に経営学部では企業経営に実際に役立つ実践的な研究が重視され、そしてそれをベースにした企業経営に実際に役立つ新しい教育が求められます。教育は目標達成に向け体系的に編成されたカリキュラムによって推進され、研究は学部教員の努力によって纏め報告された紀要にその拠り所を持つことになります。紀要は発行する大学・学部の研究水準の、また間接的には教育水準のバロメーターでもあります。学術論文は当然ですが、調査報告や事例研究、企業とのコラボレーション、企画提案といったより実践的な成果が期待されます。そのような報告が経済学部経営学科の「明星大学経営学研究紀要」として第7号まで刊行され、収録された論文は55篇におよび、ほとんどの教員がその執筆にかかりました。

紀要の質の維持は言わずもがな重要です。そのために、厳格で公平な査読を経た論文のみを掲載すべきかもしれません。しかし紀要にそのような査読制度を取り入れることは様々な理由によって現実には難しいのです。現段階では、投稿された原稿はすべて本学部研究紀要編集委員会が責任をもって査読し、所定的水準にあると判定されたものだけを掲載することとします。

繰り返しますが、大学の使命である“教育と研究”を通じて明星大学経営学部が掲げる目標達成に邁進したいと考えております。紀要はまさに“教育と研究”のブリッジをなすものであり、また学部の研究発展にとって重要な役割を果たします。

新経営学部の発展は研究紀要の充実にあると言っても過言ではないと思います。教員は毎年投稿され、その成果を広く社会に発信して経営の分野のみならず、人間社会の発展に寄与しようではありませんか。

2013年3月
経営学部長 阿部克己